

## 女性の就業率上昇 -M字カーブの変化-

女性(15~64歳)の就業率は、この度、2013年(平成25年)平均で62.4%となりました。

女性の就業率は、2010年(平成22年)に60%を超えた後、過去最高<sup>注1</sup>を更新し続けており、年齢階級別に10年前と比べると、最も上昇したのは、30~34歳で10.9ポイント上昇しました。また、有配偶者の就業率が大きく上昇し、10年前に比べ、30~34歳では12.1ポイント、25~29歳では9.9ポイント上昇しました。

注1)比較可能な1968年(昭和43年)以降

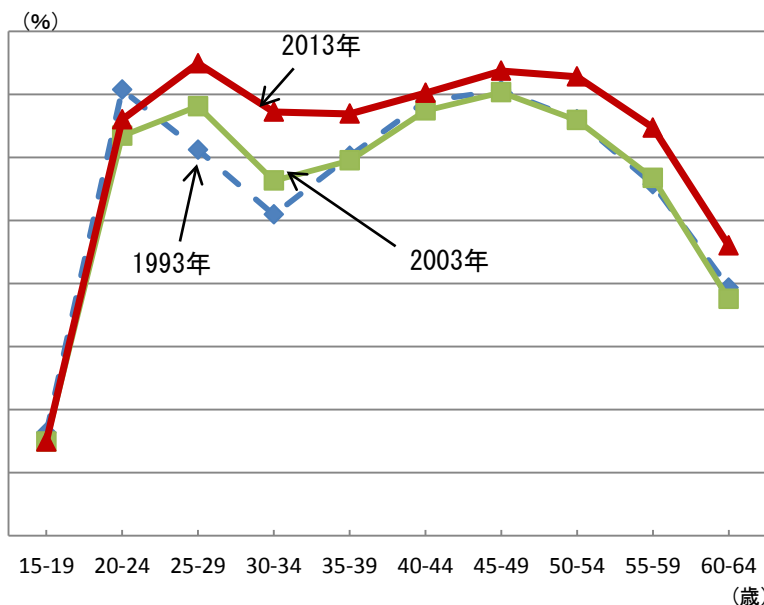
### 30代で特に上昇

就業率を年齢階級別にみると、25~29歳では74.9%と他の年齢階級も含めて初めて74%を超えました。

また、10年前の2003年に比べ、最も上昇したのは、30~34歳で10.9ポイントの上昇となっています。女性の就業率は、一般に学校卒業後の年代で上昇し、その後、結婚・出産期に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、M字カーブ<sup>注2</sup>を描くといわれています。10年前は、30~34歳がその底にあたっていました。また、現在のM字の底である35~39歳は、10年前に比べ7.4ポイント上昇し、66.9%となり、M字カーブの形に変化が出てきています(図1)。

注2) M字カーブは労働力人口比率により作成される場合が多いが、ここでは就業率に用いている。

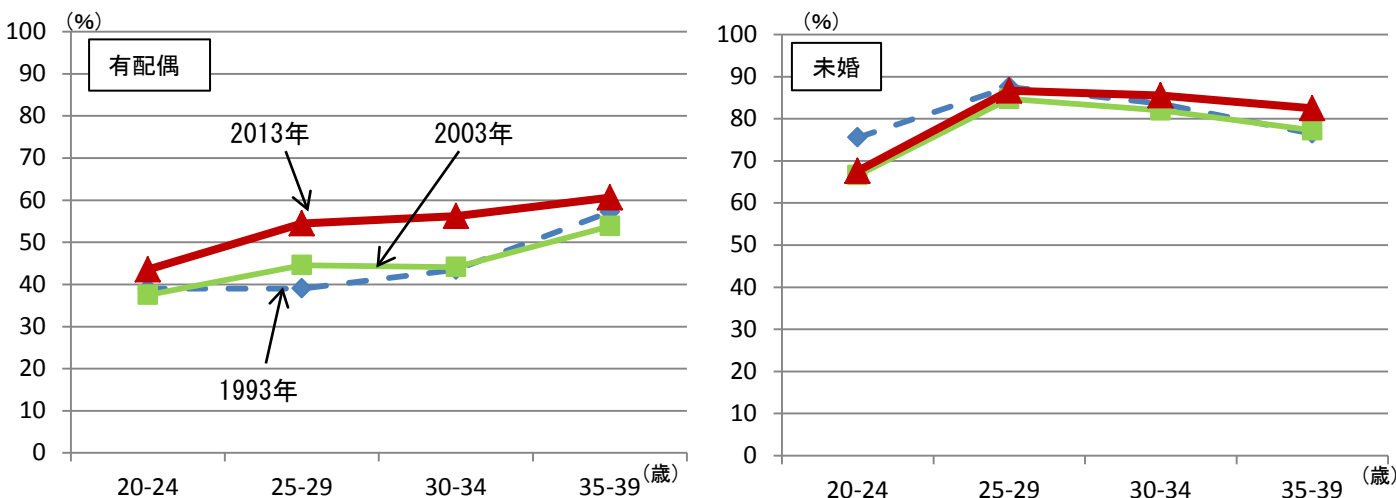
図1 年齢階級別就業率(女性)



### 有配偶者の就業率が上昇

就業率の変化が大きい20代及び30代について、配偶の有無別に就業率をみると、有配偶者の就業率が10年前に比べ大きく上昇しており、30~34歳では12.1ポイント、25~29歳では9.9ポイントの上昇となっています。また、M字の底である35~39歳でも6.8ポイントの上昇となっています(図2)。

図2 配偶の有無・年齢階級別就業率(女性・20~39歳)



(参考) データ・資料はこちら

【図1に関連する結果表】

◆ [年齢階級\(5歳階級\)別就業者数及び就業率\(長期時系列表3\(3\)\)](#)

【図2に関連する結果表】

◆ [I-4表 就業状態・従業上の地位・雇用形態\(非農林業雇用者については従業者規模\)・農林業・非農林業、配偶関係・年齢階級別15歳以上人口\(2013年平均\)](#)

(2014年1月31日掲載)